



2021年3月14日の御報恩御講の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

「天下の静謐(せいひつ)を思はば須く国中の謗法を断つべし」とは、立正安国論の一文です(御書247頁)。時は末法の時代、日本は鎌倉を中心に、大地震・大旱魃・大疫病に包まれました。幕府は度重なる災難に恐れをなし、仏教諸宗や神道らに、あらゆる災難退治の祈禱を命じたのです。しかしそれらは全くしるしが無いばかりか、益々災難は増大し、多大な民衆が命を落としていきました。大聖人は仏智をもって災難の起こる根本原因を究明せられ、結果、「世の皆が正に背き、人の悉くが悪に帰す」によるものと決判されたのです。北条氏はこの御本仏の諫めを用いず、大聖人を迫害し、安国論の予言通り、自界叛逆、他国侵逼の難によって滅んでいきました。私たち大聖人の門下たるもの、上掲の御意を拝し、常に立正安国のために折伏弘教に邁進してまいらうではありませんか。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その8)

昭和52年に入り学会は、学会に批判的な僧侶への吊り上げを執行し、公然と宗門批判・僧侶否定の指導をするようになった。これは当時学会が、宗門支配、もしくは分離独立をひそかに画策する第一段階の宗門への圧力を露わにしたものだった。その根拠は側近幹部が池田氏へ提出した報告書に明らかである。『山崎・八尋文書』(昭和49年4月)「一つは、本山とはいづれ関係を清算せざるを得ないから、学会に火の粉がふりかからない範囲で、(中略)いつでも清算できるようにしておく方法であり、いま一つは、長期にわたる本山管理の仕掛けを今やっておいて背後を固めるという方法です」『北条文書』(昭和49年6月)「長期的に見れば、うまくわかれる以外ないと思う」「やる時が来たら徹底的に斗いたいと思います」と。この画策のもとに逸脱路線が遂行されたのである。(次回、御本尊模刻事件のほか、新興教義の具体例を示す)

③ 正しい信仰を求めている方へ(人の命には限りがあるという話)

釈尊の時代、五神通力といって、足は地を踏まず、人の心を知り、目は千里の先を見とおせ、名を呼べば直ちに現れ、形あるものを石壁をも通すことのできる四人の兄弟がいた。この四人ともこの世の寿命があと七日でつきるといふ事を知り、王のもとを訪ね、別れの挨拶をした。「しばらくのお別れにきました。七日が過ぎれば帰ってまいります」と。七日が過ぎ、市長が町で倒れて死んでいる四人を発見し、釈尊に報告した。釈尊は「四事といって、生きものは業によって生まれる。生まれたものは老いる。生きものは病を得る。生きものに死は免れない」と語った。仏から見れば当たり前のことを人は分かっていません。生き抜く意味を知るため、妙法の教えを知りましょう。

第50号

法遍寺 から大切な 皆様へ

2021年4月1日

日蓮正宗 年間方針

宗祖日蓮大聖人
御聖誕800年の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

① 日々勤行・唱題の実践

功德の源泉

一家和樂の信心

② 折伏実践こそ最善の報恩行

御命題達成

誓願成就

③ 寺院参詣と登山で人材育成

無始の罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料